

北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

〜縄文・古代史編〜

第9回・人類の誕生〜そして北海道へ

更新世		縄文～擦文	明治				大正	昭和			平成	時代	
3万2千年前	1万年前	7千～千年前	4	6	8	23	44	7	16	43	46	2	年代
支笏火砕流の発生	旧豊平川扇状地の形成	ぼうず山・東山遺跡 天神山チャシ	岩手県からの集団入植	平岸用水の開削	リング栽培の開始	平岸小学校開校	あんぱん道路の完成	定山溪鉄道の開通	平岸霊園の開園	HTB開局	地下鉄南北線開業	羊ヶ丘通全面開通	できごと

人類が最初に誕生したのは700万年前の東アフリカです。それから、猿人、原人、旧人、新人の4段階に分かれて進化してきました。私たちの祖先である新人(ホモ・サピエンス・サピエンス)が誕生したのは今から約20万年前のアフリカです。彼らは約7万年前に突然アフリカを出て、アラビア半島を渡って世界中に拡散していきます。この時期アフリカ地域で大きな気候変動があり、狩猟採集生活をしてきた当時の人々は、エサを求めて放浪の旅に出たといわれています。当時は氷河期で海面が下がっていたので現在と陸地の場所が違いますが、アジアの海岸沿いにどんどん進んでいって、5万年前にはオーストラリアに入ります。また、別の集団はアジア大陸を北方へと進みます。4〜5万年ほど前には南から日本列島に人が入りました。ヨーロッパには少し遅れて、4万年前ごろに人が入っています。そして、2万年ほど前、地球の寒冷化が一気に進むと、いったん北上がった人類が、南に下がって来ます。この時期、海面は今より100mほど下がり、間宮海峡(最深部は15m)や宗谷海峡(同50m)は陸化していました。最終氷期の大半(約8万年〜1万年前)を通して、北海道はユーラシア大陸と地続きとなっており、このルートを通して、最初の人類が北海道へ入ってきました。なお津軽海峡は最深部が130mと深く、陸化することはなかったようで、大陸から渡ってきたナキウサギは北海道より南に下がることはできませんでした。

この頃の遺跡が千歳市の柏台1遺跡です。ここでは細石刃石器という長さ5センチ程度のカミソリの刃のような石器がたくさん見つかっています(写真1)。この細石刃石器は大変によくできたもので、彼らはこれを上手に使い、狩

りを行っていました。まず、動物の角や骨を材料にして槍先部分を作ります。この槍先の横に溝を掘り、そこにこのカミソリ型石器をはめ込み槍の刃にします(図1)。欠けた石器はその部分だけ新しいものと交換すればいいわけで、大変使い勝手がいいものです。また、槍先部分は骨でできているので、軽く持ち運びにも便利な道具でした。この石器はシベリアやサハリン、中国北部でも多く見つかっており、もともと東北アジアに住んでいた人たちが使っていたと考えられています。そして約2万年前、気候の寒冷化に伴いマンモスなどの大型動物がエサとなるイネ科の草原を求めて北海道に南下してくると、彼らもそれを追う形で渡ってきました。

今から1万年前、氷河期が終わりマンモスのエサとなる草原が消え、森林に変わるとマンモスも絶滅してしまいます。狩猟対象の大型動物がいなくなった後、当時の人々は生き延びるために新たな生活スタイルを見つけなければなりませんでした。

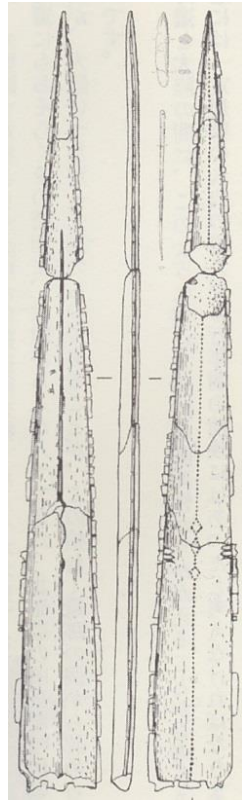


図1. 細石刃石器をはめ込んだ植刃器(縄文人はどこからきたか? 北の縄文連続講座・記録集117ページより引用)



写真1. 千歳市柏台1遺跡の細石刃(新北海道の古代1 旧石器・縄文文化41ページより引用)

参考資料『縄文人はどこからきたか?』北の縄文連続講座・記録集、北の縄文文化を発信する会、159pp。  
 新北海道の古代①旧石器・縄文文化、北海道新聞社、239pp。  
 バックナンバーお届けいたします。ご希望の方は販売所までお気軽にご連絡ください。ご自宅までお届けいたします。

【編集後記】 千里の道も一歩から

「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界遺産にしようという運動が行われているのを、ご存知でしょうか? 代表的なものとして青森県の三内丸山遺跡や北海道初の国宝「中空土偶」といったところが有名ですが、札幌にもたくさんさんの縄文遺跡が見つかることはあまり知られていません。残念ながら世界遺産への推薦は見送りとなってしまいました。これを機会に地元の遺跡について興味を持っていただければと思います。世界遺産という千里の道も地元歴史の歴史に目を向けるという小さな一歩から繋がるはずですよ。

執筆者: 道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年室蘭市生まれ。金沢大学理学部地球  
 学科博士課程(古生物学専攻)を修了後、六花亭  
 に入社。2011年より現職。

◇発行元◇

(有)北海道新聞永田販売所

〒062-0936

札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18

TEL: 0120-128-348

Fax: 0120-128-358

◆この連載は毎月1日・15日の北海道新聞朝刊に折り込みしております